

# 開発途上国とグッド・ガバナンス

岡田 昭男

## 1. はじめに

先進国と途上国の問題が討議されるようになってから、半世紀が経過した。その間、途上国に段階付けによる区分が行われ、その区分に従って援助や協力の内容がかわるようになった。有償援助の場合、返債が滞って累積債務となり、また重債務貧困国（HIPC）となるケースもかなりある。こうした反面、対外債務をクリアして、途上国を卒業し、先進国の仲間に入るケース（韓国）もある。

しかし、重債務貧困国から抜け出られない国も多いところ、その場合、当該国の財政経済の運用、法制、治安の維持のまずさが問題とされ、近年、この問題を「ガバナンスの良し悪し」として論じられるようになった。

## 2. CEMACのケース

当初、小生が試みた中部アフリカ経済通貨同盟（CEMAC）が採用した、多数国間監査制度（マルチ・サーベイランス制度）に見られる様式を、ガバナンス問題のテストケースとして取り上げることを考えていたので、その主要部分のみの披露に留めたい。このマルチ・サーベイランス制度は、収斂委員会（Conseil de Convergence）とも呼ばれ、マクロ政治経済に関する加盟諸国間の合議による多数国間監査制度である。

その機能として、

### （1）域内単一通貨制度の安定

歳出を赤字にしない

内外に累積債務を生じせしめない

公的給与全体の増加は、歳入の増加と同等か、それ以下とする

### （2）IMF、世銀による構造調整計画の実施

### （3）国民生活の健全かつ持続的経済成長の推進

以上が、CEMAC加盟国が了解し、受諾した内容であり、良きガバナンス無しには実行不可能な内容である。

## 3. グッド・ガバナンスとは

世銀のペーパー（ウォルフェンゾン総裁述：変革のための連携）は、ガバナンスを「優れたもの」と「劣ったもの」の二つに分類して、要旨を次のように述べる

### 優れたガバナンス

- ・1人あたりのGDPの伸びが見られる
- ・成人の識字率の向上がみられる
- ・乳幼児死亡率の低下がみられる
- ・貧困の緩和が見られる
- ・人材の育成（意欲ある公務員の養成が行われる）
- ・法律制度、税制がしっかりしている

### 劣ったガバナンス

- ・汚職・腐敗が蔓延している
- ・責任と透明性の欠如
- ・犯罪件数が多い
- ・経済の停滞が見られる（貧困が著しい、開発の遅れ）
- ・教育、保健衛生の遅れ、水資源の不足

「金融危機」も「貧困」も原因は同じであり、健全な財政や金融が打ち出されても、「良いガバナンス」が行われなければ成功しない。そのため必要なのは：

- ・透明な監督のゆきとどいた金融システム
- ・安定した税制に枠組みを与える司法制度
- ・人権、財産権、契約の保護を守る法律制度
- ・汚職と腐敗の防止
- ・債務の削減は、努力の入り口であり、到達点ではない。

更に、政府、国際機関、民間セクター、市民社会等プレーヤー相互の協力による連携体制が必要であり、通商、環境、保険、情報革命を含む、機能的な21世紀の開発ランドが期待される。

#### 4. N E P A D にみるグッド・ガバナンスへの対応

アフリカ大陸は1973年の三重苦の到来以降、経済危機は慢性化し、1986年の国連アフリカ特総も行われたが、アフリカの弱体化は止まず、他方、世界経済のグローバル化は更に進展を見せた。アフリカの主要首脳は、リビアのカダフィ大統領の尽力もあり、OAUの機構改革ほか、ミレニアム・アフリカ再生計画、アフリカ・オメガ計画等、各種の改革案を打ち上げ、結局「アフリカ開発のための新パートナーシップ（N E P A D）として2002年のダーバン第1回アフリカ連合首脳会議に提出し、アフリカ

加盟諸国全体が厳守すべき重要事項（グッド・ガバナンス）として採択された（内容：汚職・腐敗の防止、貧困からの脱出、経済の活性化等）

#### 5. 先進国のパートナーシップ

途上国側がOAU、AUを通じ、NAPADを提示したのに対し、先進国側G8は、ジェノヴァ（2001年）、カナナスキス（2002年）のサミットを通じ、アフリカ首脳等と協議を重ね、アフリカ行動計画をまとめつつあったところ、2003年6月のエビアン・サミットにおいて、G8アフリカ行動計画の仕上げを急いだ。

G8アフリカ行動計画の核心となる問題は、何よりもアフリカ諸国のグッド・ガバナンスが必要であり、そのため、汚職・腐敗の防止、人権、財産権の保護、安定した司法制度、しっかりした税制、透明で公平な監督の行き届いた金融制度が、自らの自助努力（オーナーシップ）により行われることである。これに相対するように、先進国側のパートナーシップ（援助）が応えることになる。

#### 6. おわりに

途上国のグッド・ガバナンスをめぐる自助努力（オーナーシップ）をアフリカ諸国自らがこれを容認し、これを受けて先進G8諸国は、回を重ねたサミットにおいて、パートナーシップ（援助）の具体化に乗り出した。この具体化がG8のアフリカ行動計画の実施となり、その成果がやがて現実のものとなるであろう。